第６章　文化財の一体的･総合的な保存と活用

１　関連文化財群の設定

(1)　関連文化財群の設定

当計画における歴史文化とは、いわゆる文化財６類型にとどまらず、文化財とそれを取り巻く自然環境や周辺の景観、地名や伝承、伝統的な生活文化さらに文化財を守り支える人々の活動などを含めた総体であると捉えています。これらを共通のテーマやストーリーでつなげ、一体のものとして価値付けできるまとまりとしたものを関連文化財群と呼びます。

関連文化財群として扱うことで、未指定の文化財も構成要素としての価値を再確認できますし、文化財の持つ多面的な価値を捉えやすくなるでしょう。その結果所有者だけでなく、地域の方々や外部から来られる方々にも新たな魅力を伝え、地域振興の一助とすることができます。

(2)　関連文化財群の考え方

第３章では、白岡市の文化財の特徴を自然・地理的環境、社会的環境、歴史的背景、把握した文化財、人々の生活文化などから浮かび上がった５項目にまとめることができました。

この特徴の中に共通してうかがえたものは、「河川・用排水・沼地」や「水運」、「新田開発」などいずれも「水」や「水を連想させる事柄」でした。市域は、埼玉県東部の低地と標高の低い台地とが複雑に入り組んだ地域に位置し、こうした地域の様相を反映した歴史文化の特徴であると見ることができます。

白岡市の歴史文化の５つの特徴を軸に、文化財個々の持つ特徴や地域性などを象徴的に示す６つの関連文化財群を設定し、６つの文化財群それぞれの魅力や価値をわかりやすく表すストーリーで結びつけました。この６つの関連文化財群は、様々な文化財の総合的な保存と活用を行うモデルとします。

この文化財群は、市民の皆さんとともに実施した「みんなで作ろう！白岡遺産ワークショップ」の成果を基に設定したものでもあります。

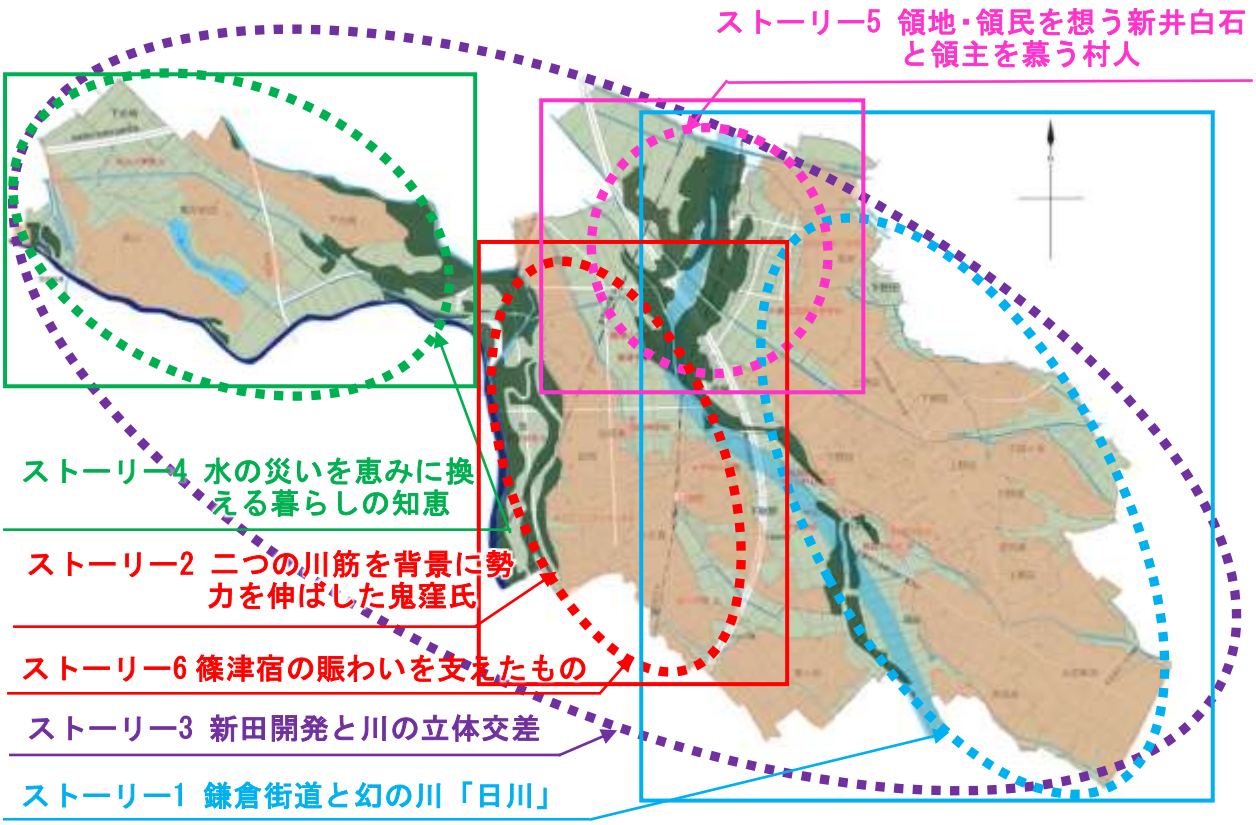
関連文化財群とストーリーの考え方

関連する文化財群	・地域の歴史文化の特徴を象徴的に示すもので、有形、無形、指定、未指定を問わず多様な文化財を一体として価値づけできるまとまり。
ストーリー	・地域の歴史文化の特徴を象徴的に示すテーマに沿って、個々の文化財の魅力や価値をわかりやすく表す物語。
継続的保存と活用	・関連文化財群として保存と活用の対象とすることがふさわしいもので、今後の計画的取組が期待できるもの。

歴史文化の特徴とストーリーの関係

歴史文化の特徴	文化財の特徴					地域性	ストーリーの名称
	河川用排水	武士団	道	新田開発	人々の暮らし		
Ⅰ　二つの鎌倉街道と中世寺社群	○	○	○	○	○	東部	1 鎌倉街道と幻の川「日川」
	○	○	○			中央部	2 二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏
Ⅱ　新田開発を巡る用排水路の開削と川の立体交差	○		○	○	○	全域	3 新田開発と川の立体交差
Ⅲ　排水の苦労を乗り越えてきた低地の暮らし	○			○	○	西部	4 水の災いを恵みに換える暮らしの知恵
Ⅳ　新井白石の残した歴史文化	○			○	○	野牛地区	5 領地・領民を想う新井白石と領主を慕う村人
Ⅴ　篠津天王様の祭礼に見る近世町場の面影	○		○		○	中央部	6 篠津宿の賑わいを支えたもの

ストーリーの地理的展開状況



□は、各ストーリーの地図表示エリア

(3) 関連文化財群のストーリーと構成要素

ストーリー１　鎌倉街道と幻の川「日川」

関連文化財群のストーリー

市域東部に位置する大宮台地の慈恩寺支台を縦貫するように「鎌倉街道中道」に比定される道筋が残されています。沿線には、安楽寺、大徳寺、正伝寺、忠恩寺、上野田鷲神社、高岩天満神社など、中世起源の寺社が並び、様々な伝承が残されています。この道筋をもとに近世には、日光御成道が整備され、江戸から 11 番目の一里塚が置かれました。

自然環境とのかかわりでは、台地の西側を中世期には利根川本流筋であった「日川」が流れ、西側の埼西郡と東側の太田荘とを隔てていました。

日川は、村々のつながりや信仰圏などにも大きな影響を及ぼしてきました。村々は、鎌倉街道でつながる岩槻や春日部との関係が強い傾向にあり、鎮守も日川西岸が久伊豆神社を祀っているのに対し、東岸では鷲神社を祀っており、神社分布の境界をなしていることがわかります。近代になると「日勝村」を構成するエリアの中核となります。江戸幕府の利根川東遷事業の結果、水流は途絶え、すでに川はありませんが、今でも地域では親しみを込めて「日川筋」、「日川田んぼ」などと呼んでいます。

慈恩寺支台を開析し日川に開口する支谷の一つ「大日沼の谷」は、大徳寺の大日如来の御頭と御手を沈めておいたとの伝承を持ちます。この谷は、時代を遡ると、縄文時代から人々の暮らしの痕跡が残され、湧き水を使った木の実の処理などが行われていたことがわかっています。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	**伝鎌倉街道中道**	鎌倉時代に整備された 3 本の幹線のうちの 1 本と考えられています。古利根川の渡河地点に応じて、下野田地内で 2 筋に分かれていた可能性があり、一筋は高岩から現在の県道さいたま幸手線に沿って和戸へ抜ける道、もう一つは爪田ケ谷から東条原を通って須賀へ抜ける道が想定されます。
2	**安楽寺　薬師如来坐像（市指定）**	鎌倉街道沿いの中世寺院安楽寺に安置されており、胸板内面に「応仁二年(1468)祐栄法印　再興修理年代　朝日山本堂本尊薬師如来(後略)」との墨書があります。
3	**安楽寺　円空作菩薩形坐像（市指定）**	安楽寺の須弥壇に安置されていた総高 11cm 余の菩薩形坐像です。江戸時代前期の僧円空の手になるものです。円空が日光御成道沿いに残した一連の作品群の一つに数えられます。
4	**大徳寺　大日如来坐像（市指定）**	大徳寺縁起によれば「元弘の乱」の折に、北条方の敗残兵に火をかけられ、大日如来の御頭と御手を「大日沼」に沈めて守ったとの伝承があります。昭和の修理の際に胎内から手が発見され、この伝承が確かめられました。
5	**大徳寺縁起**	前述の大日如来の伝承をはじめ、新田義貞、脇屋義助らにまつわる伝承や、寺の規模や伽藍に関する伝承などが記されています。
6	**正伝寺　聖徳太子立像**	正伝寺は岩付(槻)城主太田(北条)氏房が奉納したと伝えられる聖徳太子自作の面を納めた太子像を安置しています。
7	**忠恩寺　忠恩寺文書（市指定）**	忠恩寺は渋江兼重が天喜 2 年(1054)に開基したと伝えられる寺で、天文 22 年(1553)岩付(槻)城主太田資正が発給した棟別免許状や永禄 3 年(1560)に上杉輝虎(後の謙信)に尋ねられた折に応えた内容として伝えられる「高岩山由来」(写し)、近世では徳川家からの朱印状 9 通などが伝えられています。
8	**折原家金銅仏**	野田村の草分けの家柄の家に伝えられる薬師如来立像です。初代が南朝の落武者として関西から来たときに、髷の中に入れてきたとの伝承があります。
9	**忠恩寺　山門（市指定）**	朱塗りの八脚門で、享保年間の村絵図には、仁王門とあり、2 層構造として描かれています。幾度かの修理を受け現在の形となったものと思われます。
10	**忠恩寺　十三仏（市指定）**	安永 8 年(1779)の銘を持つ舟形の石塔です。十三仏の信仰は南北朝期から盛んになったといわれています。江戸中期の庶民の仏教信仰の様子を伝える資料です。
11	**忠恩寺　九品仏（市指定）**	舟形光背を持つ 9 体の阿弥陀如来坐像と造像の経緯や造像に協賛した日川筋両岸を中心とする 48 村の銘が記された供養塔です。
12	**高岩村絵図**	江戸時代中期享保年間(1716～1736)に描かれた村絵図が残されています。忠恩寺の様子のほか、当時の道筋や集落の様子を知ることができます。
13	**赤砂利遺跡出土和鏡**	菁莪中学校の体育館改築工事に先立って行われた発掘調査で出土したものです。口禿の白磁小皿や櫛とともに墓坑から出土しました。大徳寺の寺域や、鎌倉街道中道沿いの集落の存在を裏付ける資料です。

14	**清左衛門遺跡道路状遺構**	現在の県道さいたま幸手線沿線で行った発掘調査で、大徳寺側へ延びる硬化面を伴うごく浅い溝状の遺構が検出されました。全体像が把握できたわけではありませんが、「道路」の痕跡である可能性があります。
15	**石橋供養塔**	爪田ケ谷の爪田ケ谷橋のたもとに建てられたもので、嘉永３年(1850)に架設したものを明治 18 年(1885)に加増したことなどが記されています。また、「南いわつきへ二里、しをんじへ壱里十丁　北さつてへ二里、すぎとへ一里」など道しるべとしても利用されています。
16	**清左衛門遺跡**	縄文時代前期から晩期にかけての複合遺跡です。集落形成の中心となるのは、縄文時代中期末葉から晩期中葉で、「大日沼の谷」に面して縄文時代後期の水場遺構 4 基のほか、縄文時代晩期の墓坑群などが確認されました。集落本体は日川の支谷に面していますが、人の移動や交易には日川沿いの道筋が使われたことでしょう。また、土坑内に形成された地点貝塚の貝なども日川沿いに採集に出かけたものと思われます。
17	**高岩天満神社奉納絵馬群（市指定）**	初見は文政 11 年(1828)、絵馬 24 面、扁額 15 面からなる奉納絵馬群です。学問の神様天神社らしく、俳諧、短歌、裁縫などの上達祈願絵馬が特徴的です。 また、円面金箔押しの絵馬「神馬献上」などは秀逸です。
18	**日光御成道　一里塚（県指定）**	日光御成道沿いに築かれた江戸から 11 番目にあたる一里塚です。東西両塚が残る県内唯一の事例です。杉並木が失われた今日、往時を伝える数少ない遺産です。
19	**濱田家文書（一部市指定）**	上野田村の名主家であり、近世を中心とする村政資料が豊富です。日川田んぼ周辺が領主一橋家の「御捉飼場」であったことから、短筒火縄銃とその鑑札、銃借用の背景や地域の状況などのわかる古文書なども残されています。
20	**澁谷家文書（市指定）**	岡泉村の名主家で、近世・近代文書や典籍約 750 点から構成されます。近世の日川田んぼや日川関係の水利、普請その他の状況をよく表しています。 また、大正から昭和前期に日勝村長を務めた澁谷塊一の残した日勝村関係の文書群や、塊一と親交の深かった北原白秋との往復書簡などは貴重です。
21	**上野田鷲神社**	古くは高祖明神社といったようです。天文 23 年(1554)銘の鰐口が掲げられていたと伝えられ、中世「野田村」であった時代の草創であることがわかります。鷲神社を勧請するのは日川東岸の村の領域であったことの証です。
22	**下野田鷲神社**	野田村分村後に祀られたものと思われます。境内には、不二講の女孝中の供養塔があり、当時の民間信仰や道徳観を示す資料としても貴重です。
23	**ひこべえの森**	彦兵衛下小笠原地区に所在する 1.2ha ほどの雑木林です。『武蔵国郡村誌』にも「上下小笠原林・民有に属す」と見えるもので、市内でも貴重な平地林です。林床には、カラタチバナやシュンランなどの絶滅危惧種も見られます。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		大徳寺の三十三間堂・大日如来伝説、正伝寺開山様信仰、正伝寺聖徳太子伝説
関連文化財群と関連の深い人物		脇屋義助、吉田将監、渋江兼重、太田資正、澁谷塊一、大長益善

高岩天満神社奉納絵馬・神馬献上

忠恩寺山門

早春のひこべえの森

大徳寺大日堂鋪地麁絵図（濱田家文書）

一里塚

太田資正棟別免許状（忠恩寺文書）

折原家金銅仏

大徳寺縁起（部分）

木造薬師如来坐像（安楽寺）

現在の日川新田半蔵受地周辺

日川新田検地帳

日川新田半蔵受地周辺絵図（澁谷家文書）

ストーリー2　二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏

関連文化財群のストーリー

篠津の台地上に人々が暮らし始めるのは、旧石器時代後期のことです。その後、荒川の砂鉄を原料に鉄生産を始めた人々が篠津の地に住み着きます。荒川に合流する星川や台地のすぐ東側を流下していた利根川本流筋の日川の存在は、交通交易に絶好の環境であったはずです。

古代末から中世初頭になると、利根川筋と荒川筋の最接近点で、両水系の水運の便がよく、鉄生産の拠点でもあった篠津に目をつけた豪族が土着します。武蔵七党に数えられる野与党鬼窪氏です。鬼窪氏は篠津を拠点に、白岡支台ほぼ全域を勢力下に治め、血縁のある氏族は周辺に拡大していきます。

現在の篠津観音堂から篠津小学校前を通り寺塚へ抜ける道は「のよみち」と呼ばれています。人々の生活の中に野与党がいまだに生きている証拠ということができるでしょう。

康治元年(1142) の草創と伝えられる篠津久伊豆神社のすぐ南側には、複雑に堀の巡る館跡が存在し、数棟の掘立柱建物跡も見つかっており、鬼窪氏との関係が想像されます。

このほかにも、篠津から白岡、小久喜、実ケ谷にかけては「鬼窪郷」と呼ばれ、中世起源の寺社と館跡が対を成して展開します。中世寺院興善寺と神山遺跡、中世神社白岡八幡宮とその別当寺院正福院と入耕地館跡、そして寿楽院と鬼窪尾張繁政館跡などです。これらの多くは、鬼窪氏ゆかりのものと思われ、特に、入耕地館跡は、「高麗経澄軍忠状」で観応の擾乱に際して「鬼窪にて旗揚げ」と見える挙兵地点と推定されます。

また、日高市聖天院に伝わる「聖天院応仁鰐口」（県指定文化財）は、その銘文から実ケ谷久伊豆神社に奉納されたものであることが知られています。銘文には「久伊豆御宝前鰐口　願主衛門五郎　武州埼西郡鬼窪郷佐那賀谷村　大工渋江満五郎　応仁二年十一月九日」と刻まれています。

白岡支台西縁部に館跡が集中するのは、台地西側が急峻となる大宮台地の特徴に加え、現在の元荒川、星川や河川後背湿地が天然の要害となったためと想像されます。鬼窪氏は、白岡支台を本拠地とし、東の日川、西の元荒川・星川を巧みに使った防御線を形成していた様子が浮かび上がります。

寿楽院の前から西に延びる古道は鎌倉街道と呼ばれています。篠津の台地を縦貫する道を合わせて元荒川沿いを南下し伊奈へ抜けます。この道は「鎌倉街道羽根倉道」と呼ばれる道筋へ通じるものと思われます。観応の擾乱の折、挙兵した鬼窪氏らは、この道を進軍したのでしょう。

篠津から、白岡・小久喜・実ケ谷と連なる大宮台地の白岡支台は、荒川水系と利根川水系とを隔てる要衝に位置し、鬼窪氏の勢力拡大の基盤となりました。14 世紀後半、鬼窪氏が鎌倉府の中で関東管領上杉家と密接な関係を持ち重要な立場を占めることができたのも、安定した勢力基盤があったからに他ならないでしょう。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	**篠津久伊豆神社**	康治元年(1142) の草創、鬼窪氏発祥の地と伝えられます。当社も包含される中妻遺跡では、多数の堀や建物跡などが検出されており、中世館跡の存在が確実です。現在の社殿は安政 5 年(1858) の築造で、豪華な伽藍彫刻で飾られています。
2	**青雲寺**	『新編武蔵風土記稿』などでは、近世以降の事績が伝えられるのみですが、鬼窪氏が開発した篠津の中核を担ってきた寺院であることから、古刹であると考えるべきでしょう。今後の調査が期待されます。
3	**中妻遺跡**	縄文時代及び古墳時代から中世にかけての複合遺跡です。8 世紀前半の小鍛冶工房跡が検出されており、荒川の砂鉄を原料とした鉄の精錬が行われていたことがわかっています。中世館跡に伴うと見られる堀跡や建物跡も見つかっており、鬼窪氏にかかわる遺構群と考えられます。
4	**興善寺**	文亀 2 年(1502)、菖蒲城主佐々木氏綱を中興開基、季雲永岳禅師を中興開山として曹洞宗に改宗したと伝えられます。神山遺跡の発掘調査では、上幅 7m、深さ 3mの堀をめぐらせており、佐々木氏の館の一つとして機能していたことがうかがえます。
5	**興善寺中世石造物群（市指定）**	板石塔婆 1、宝篋印塔(部分)6、五輪塔(部分)1 からなる資料群です。板石塔婆は、初発期の特徴を備えた厚みのある阿弥陀一尊種子が刻まれたもの、宝篋印塔は建武年間(1334～1338)銘 1 個体、延文 2 年(1357)銘のもの 2 個体など、14 世紀前半から半ばに位置するものを含みます。
6	**木造達磨大師像（市指定）**	興善寺に安置された寄木造りの裳裾垂下像で、室町期の作と推定されます。煤けて漆黒ですが、背面や法衣の襞には緋色の彩色が残されています。
7	**神山遺跡出土金銅仏**	興善寺の寺域から出土した天部形立像で、平安時代末期に遡るものと推定されます。
8	**白岡八幡宮**	建久 6 年(1195)、源頼朝の命を受けた鬼窪某が社殿を造営し、社領 100 貫文が寄進されたと伝えられます。

9	**鬼窪八幡宮鰐口(白岡八幡宮・市指定)**	「武州寄西郡鬼窪八幡宮鰐口」「享徳五年丙子八月十五日聖秀尊」の銘を持ちます。享徳５年は康正２年のことで 1456 年に当たります。鎌倉公方方は康正への改元を認めず、享徳を使い続けている事例が見られます。この時期鬼窪郷が鎌倉公方方の勢力下にあったと見ることができるかもしれません。
10	**正福院**	嘉祥２年(849)、白岡八幡宮、興善寺とともに創建と伝える古刹です。建久６年の八幡宮の社殿造営の際、真言宗に改宗したといいます。
11	**入耕地館跡**	白岡八幡宮と別当寺正福院とを結ぶ位置にある 14 世紀から 15 世紀中頃の館跡です。観応の擾乱に際して出された高麗経澄軍忠状(町田家文書・埼玉県指定)にみられる「鬼窪にて旗揚げ」の推定地です。
12	**鬼窪尾張繁政(南鬼窪氏)館跡**	『新編武蔵風土記稿』の小久喜村の条に出てくる「旧家の者文平」が、先祖を鬼窪尾張繁政と称しています。発掘調査の結果でも 16 世紀後半の館であることが確認されています。
13	**寿楽院**	鬼窪尾張繁政が菩提寺として元亀２年(1571)に開基した寺院です。鬼窪尾張繁政館跡に隣接しています。
14	**実ケ谷久伊豆神社**	日高市聖天院に伝わる「聖天院応仁鰐口」(県指定文化財)は、当社に奉納されたものであることが知られています。現在の実ケ谷村が「鬼窪郷」に含まれたことや、製作者が鬼窪氏と同族の渋江鋳物師の棟梁であることなど情報量豊かな資料です。
15	**鬼久保家文書(市指定)**	代々小久喜村の名主を務めた鬼久保家に伝わる近世から近代にかけての史料群で、3,648 点からなります。近代では、白岡駅開設に係る史料などがあります。
16	**伝鎌倉街道**	鬼窪尾張繁政(南鬼窪氏)館跡と寿楽院の南側を通り、元荒川沿いに延びる道筋は、地元では鎌倉街道と呼ばれています。篠津白岡を縦貫する古道と寿楽院西方で合流し、台地を下り元荒川の自然堤防を通る道です。
17	**元荒川**	綾瀬川と並ぶ荒川本流筋の一つです。大宮台地の白岡支台にぶつかり流れを南へ変えます。白岡支台での鉄生産の原料供給や流通に果たした役割は大きなものがあります。
18	**日川**	古代・中世では利根川の主要流路の一つとして、埼玉郡を東西に分ける領域境界となる重要な河川でした。篠津付近で荒川水系と最接近しており、篠津を交通交易の要衝たらしめた重要な河川でした。利根川東遷によって会の川が締め切られると水量が減少しました。
19	**星川**	篠津で元荒川と合流する荒川水系の河川です。上流には菖蒲や忍などの軍事や経済拠点があり、流路を使った交通交易に一定の役割を果たしていたものと思われます。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		篠津天王様、野与道
関連文化財群と関連の深い人物		鬼窪氏、佐々木氏

現在の元荒川

現在の星川（道中橋を望む）

中妻遺跡の大溝

鍛冶工房出土遺物（中妻遺跡出土）

達磨大師像（興善寺）

青雲寺

阿弥陀如来立像（興善寺）

金銅仏（神山遺跡出土）

入耕地館跡

興善寺の中世石造物群

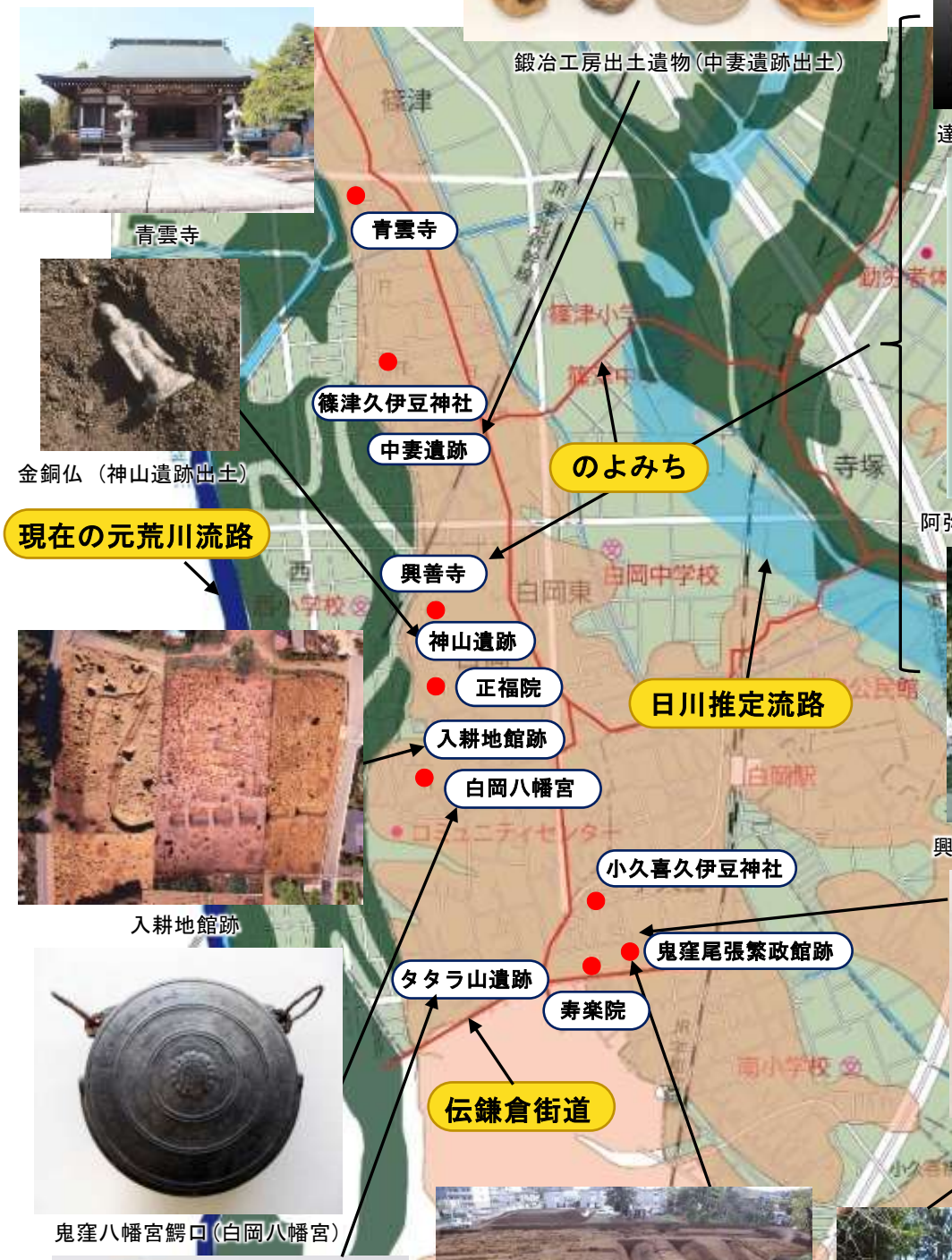
鬼窪八幡宮鰐口（白岡八幡宮）

鬼久保家文書

大口径羽口（タタラ山遺跡出土）

鬼窪尾張繁政館跡

実ヶ谷久伊豆神社



ストーリー3　新田開発と川の立体交差

関連文化財群のストーリー

白岡市全体に勾配のゆるい土地柄です。特に水田地帯では、4,000 分の 1 といわれる(4km 進んで 1m 下がる)緩傾斜であることに加え、排水の悪い河川後背湿地や沼地が多いこと、さらに大山地区などでは埋没ロームの存在が排水問題に拍車をかけてきました。

市域の近世以降の歴史は、河川改修と新田開発の歴史といっても過言ではありません。各用排水路はもちろん、これに伴う樋管、圦樋、堰、橋などの構造物のほか、新田開発や災害、争論の様子などを示す村方の古文書類、争論の裁許状や裁許絵図などが残り、水の恵みと災いにかかる地域独特の状況が浮き彫りにされます。歳月を重ねながら、人々が知恵を出しあって折り合いをつけてきた結果、多数の用排水路が網の目のように配され、ところどころで、水路が立体交差する状況も生じました。サイフォンの原理を用いた「伏越」や掛渡井を用いた「背越」などの構造は、開削はもちろんその後の管理にも大きな労力が必要でした。市内には、こうした川の立体交差が柴山伏越をはじめ 9 か所知られています。

苦労して開発した新田ですが、農民は大水や長雨による水損にも苦しめられています。田が水につからないように堤を築いたり水口を開閉したり日常の管理が重要でした。ひとたび出水すると、堤の上郷と下郷との間で堤を切るか切らないかの騒動が持ち上がります。しばしば争論となり、お上の裁定を仰ぐことになります。こうした争論に関する絵図や裁許状は当時の水利を知る上で貴重な資料となります。

排水路を掘り、後背湿地を切り拓き美田に変える作業の裏側には、先人たちの苦労の歴史がありました。各用排水路の開削の結果生じた「川の立体交差」は、この地域の自然風土と人々の知恵との結晶だということができるでしょう。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	**柴山伏越**	享保 12 年(1727)見沼代用水の工事が始まります。見沼代用水は元荒川の下をサイフォンで潜り抜けるとともに、「掛渡井」で渡る工法が採られました。しかし掛渡井は、宝暦 10 年(1760)に廃止されます。これに伴って見沼通船は橋戸で積荷を陸送に積替えることとなり、橋戸は積替え基地として栄えました。
2	**三十六間樋管**	栢間沼の排水路である栢間(隼人)堀川が野通川と見沼代用水の下を越えて流下する地点です。逆流を防ぐため樋管の途中に段差が設けられています。越えたところが現在の隼人堀川の起点となっています。
3	**二十六間樋管**	星川の下を栢間(隼人)堀川が越えます。直後に栢間(隼人)堀川は、白岡支台を素掘りで約 5m開削して横断します。
4	**伏越橋**	篠津の台地を横断した栢間(隼人)堀川が黒沼用水と交差します。伏越と掛渡井の両者が用いられました。
5	**庄兵衛堰枠(市指定)**	庄兵衛堀川旧流路に残された煉瓦製一部石製の堰枠です。庄兵衛堀川の水流をここで堰き止め、野牛・高岩方面へ配水する機能を持っていました。明治 40 年竣工で、「上敷免製」の刻印煉瓦が用いられています。
6	**白石様堀**	正徳 3 年(1713)新井白石が野牛の排水のために開削した水路で、現在の野牛高岩落川の上流部にあたります。「殿様堀」とも呼ばれます。
7	**見沼代用水**	現在のさいたま市見沼区付近にあった見沼溜井を干拓するために、井澤弥惣兵衛が、開削した水路です。現在の行田市須加の利根川から取水する水路で、わずか 8 か月で完成させたといいます。これによって、埼玉県東部に散在していた沼地の開発が加速されていくことになります。
8	**黒沼用水**	上大崎(現久喜市)の十六間堤の上流で見沼代用水から分水し、樋ノ口(現久喜市)を抜けて篠津地域を貫流する用水路です。篠津で隼人堀川と、岡泉で三ケ村落堀と、太田新井で新堀と立体交差しています。
9	**笠原用水**	樋ノ口(現久喜市)で黒沼用水から別れ、市域の北東部を潤しています。爪田ケ谷で姫宮落川と、上野田で野牛高岩落川と立体交差しています。
10	**隼人堀川**	大日沼の排水を目的に江戸前期に開削されたと伝えられています。その後、栢間堀川を含めて隼人堀川と呼ばれるようになります。市域を東西に貫流する基幹排水路として、現在も大きな役目を担っています。
11	**姫宮落川**	河原井沼(現久喜市)の排水を目的に近世前期に開削された水路です。市域の東部を流下し宮代町に抜けます。大河内金兵衛が開削したといわれ、「金兵衛堀」とも呼ばれます。
12	**備前堀川**	市域の北端を東流する水路です。江戸前期に関東郡代伊奈備前守が開削させたといわれています。鴻茎(現加須市)に端を発し清久、河原井周辺(現久喜市)の排水路としての機能を果たしています。

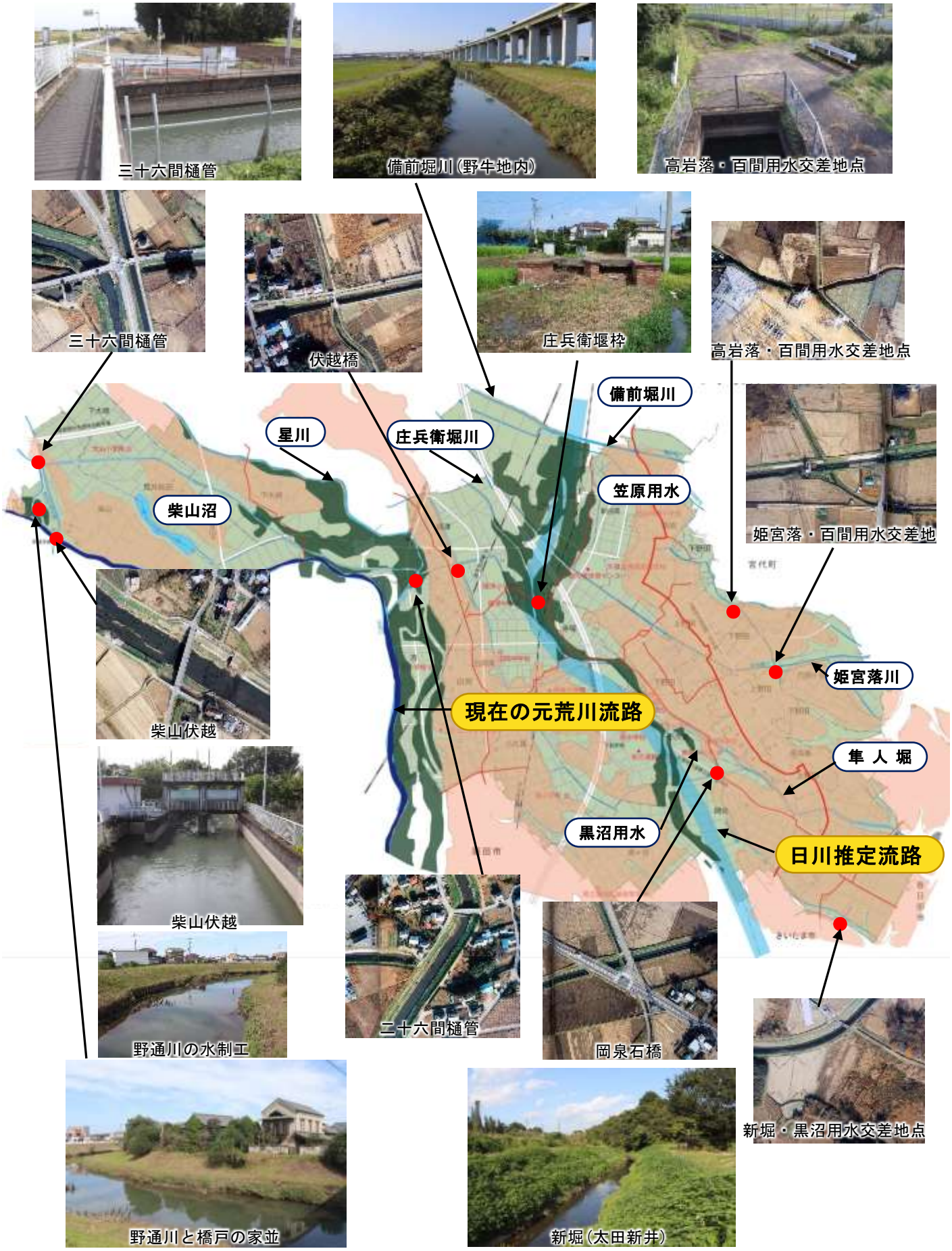
13	**庄兵衛堀川**	河原井沼(現久喜市)の干拓時に排水路として開削されたものといわれています。三箇・台(現久喜市)付近を源とし、篠津で隼人堀川に合流しています。
14	**山城堀**	貞享元年(1684)岩槻藩主戸田山城守の命により小久喜、千駄野、実ケ谷のほか蓮田市域の江ヶ崎、長崎などの地域の排水、水害防止と下流域の灌漑を目的に開削された水路で、古墨田川に排水されています。
15	**新堀**	山城堀は上郷の湛水排除が目的であったため、下郷との争論が絶えませんでした。このため、山城堀に代わる排水路として明治元年(1868)から開削工事が始められました。新堀は、太田新井で黒沼用水と立体交差し隼人堀川に排水されます。
16	**白岡村小久喜村千駄野村水口争論裁許状(細井家文書)**	寛文10年(1670)白岡村と小久喜村、千駄野村との間で行われた争論で、白岡村の排水を日川へ落とすことの是非を裁許したものです。双方の湛水、排水に関する争いとして、当時の治水の様子を知ることができる史料です。
17	**白岡村新宿村水除堤争論裁許状(細井家文書)**	寛文10年(1670)白岡村と新宿村(現蓮田市)との間で、旧星川流路沿いの排水と新田開発について争われたものです。判決は、白岡村の勝訴で、新宿村の新田を廃して排水路の確保を命じたものでした。当時排水に苦労していた様子がうかがわれます。
18	**堤土置争論裁許状(田口家文書・市指定)**	元禄5年(1692)に、上郷の新堀・小林・栢間(現久喜市)と下郷の柴山・丸谷(現久喜市)との間で争われた、水除堤のかさ上げや新設についての争論で、判決は上郷の勝訴でした。沼地の多い地域での排水は大問題であったことがわかります。
19	**富士庫家文書**	宝暦12年(1762)から着手された「彦兵衛新田」の開発に関する文書群です。町人請新田の様子がよくわかる史料です。
20	**鬼久保家文書(市指定)**	前掲
21	**細井家文書**	白岡村小久喜村千駄野村水口争論裁許状や白岡村新宿村水除堤争論裁許状を含む、近世から近代にかけての白岡村の村役人家に伝えられた史料群です。
22	**澁谷家文書(市指定)**	前掲
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		川や水路が集落の結界となることが多く、橋での道切りや災禍を流す行事、風習あり。篠津天王様ほか、あんばさま(高岩) 論所堤、名尻堤、荒井新田、彦兵衛新田、亥開、岡泉新田(日川新田)、千駄野(小久喜新田)、大沼(柴山沼) ホッツケ、舟遊び、魚とり(釣)
関連文化財群と関連の深い人物		大河内金兵衛、戸田山城守、新井白石、伊奈備前守、井澤弥惣兵衛、山崎禮助、新兵衛・彦兵衛

堤土置争論裁許状(田口家文書)

白岡村新宿村水除堤争論裁許状(細井家文書)

日川新田半蔵受地周辺絵図(澁谷家文書)

白岡村小久喜村千駄野村水口争論裁許状(細井家文書)


三十六間樋管
備前堀川（野牛地内）
高岩落・百間用水交差地点
三十六間樋管
伏越橋
庄兵衛堰枠
高岩落・百間用水交差地点
備前堀川
星川
庄兵衛堀川
笠原用水
柴山沼
姫宮落・百間用水交差地
姫宮落川
現在の元荒川流路
柴山伏越
隼 人 堀
黒沼用水
日川推定流路
柴山伏越
二十六間樋管
岡泉石橋
野通川の水制工
新堀・黒沼用水交差地点
野通川と橋戸の家並
新堀（太田新井）

ストーリー4　水の災いを恵みに換える暮らしの知恵

関連文化財群のストーリー

大山地区は、柴山沼を中心とする元荒川や星川の形成した沖積地や後背湿地に立地し、下流を埋没ロームで閉ざされているため排水が悪く、湛水に苦しめられてきました。柴山沼を囲む柴山、荒井新田地区には、柴山沼の内水氾濫に備えた「水塚」が多く残されています。県東部地域は元来水塚の多い地域ですが、多くの水塚は利根川や中川などの大河川の流域にあります。しかし、柴山沼や久喜市菖蒲町の栢間沼周辺の水塚は沼の内水氾濫に備えたものと考えられ、沼に近いほど高く、遠ざかると低くなる傾向を示します。

沼の周囲の村々の暮らしは排水に悩ませられてきましたが、知恵を絞って災いを恩恵に換えながら暮らしてきました。

柴山沼や皿沼周辺には「ホッツケ」と呼ばれる「掘上田(ほりあげだ)」が発達しています。そのままでは浅い湿地のままの沼底に溝を掘り、掘り上げた泥を盛り上げて田畑を作る耕作法です。掘り潰れの水路は集落内まで引き込み、舟による沼との往復や作物の運搬などに使いました。水害時にはこの舟で物資の輸送が行われたり、避難に使われたりしたといいます。現在も軒下に舟を下げてある家々が多数あります。

掘り潰れの水路では、農閑期には、魚とりや釣などが盛んに行われ、レクリエーションでもあるとともに、小魚などの貴重なタンパク源確保の機会にもなっていたようです。

特産の梨栽培が盛んになった理由も、地下水の水位が高いことを逆手に取って、排水と潅水のバランスを上手に管理することで、みずみずしい梨の生産につなげることに成功したためということができます。

また、近世から近代に見沼代用水を使った舟運で栄えた土地でもあります。野通川と元荒川との合流点近くの「橋戸」地区は、見沼通船の終点平野河岸から陸上交通への積替え拠点として栄えました。規模の大きな集落ではありませんが、かつては、多くの商店が軒を連ね町場が形成されたといいます。河川の合流点や柴山伏越のような水路の交差地点は、水害に見舞われることも少なくなかったと思われますが、これを河川交通の要衝に換えることに成功したと見ることができます。石造りの蔵屋敷や野通川に架かる鉄橋、水制工などが、河川を制し繁栄した当時の様子を今に伝えています。

また、沼周辺の入会権に関する争論裁許絵図などが残されており、周辺各村が利用することのできる範囲をしっかりと取り決め「藻草刈」を行い、肥やしを作ったり雑魚を獲ったりする沼からの恵みを分配するルールを作っていたことがうかがえます。

構成文化財一覧

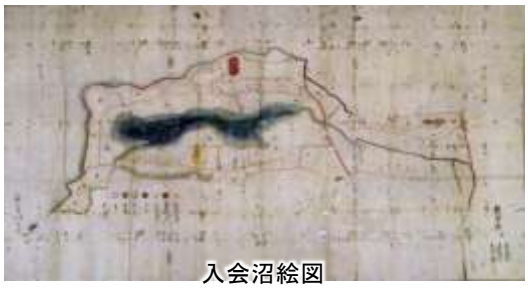
No	文化財の名称	概要
1	**柴山伏越**	前掲
2	**見沼代用水**	前掲
3	**元荒川**	前掲
4	**星川**	前掲
5	**柴山伏越改造之碑**	明治 20 年 4 月に建てられた碑で、撰文は中島撫山、篆額は埼玉県知事吉田清英によるものです。
6	**野通川の水制工**	橋戸集落の大平橋上流で野通川が東に大きく蛇行します。この蛇行部に木杭を打ち込んだ水制工が見られます。
7	**柴山沼(大沼)**	星川、野通川、元荒川流域に形成された後背湿地群のひとつで、県内の自然湖沼では、伊佐沼(川越市)に次ぐ面積を持ちます。江戸中期の新田開発期に皿沼、笠原沼、河原井沼、黒沼などとともに開発され、徐々に縮小していきます。
8	**皿沼**	下大崎と荒井新田の間に所在した沼地です。江戸時代から「掘上田」として開発されます。近代になると山崎禮助によって大々的に開発されます。掘上田の掘り潰れ水路では農閑期には魚とりなども行われました。
9	**沼落堀**	柴山沼からの排水路です。栢間堀(隼人堀)川に排水されます。
10	**水塚群**	柴山や荒井新田の集落には、柴山沼の内水氾濫に備えた「水塚」が残されています。利根川や江戸川流域の水塚と比べると高さは低いですが、水害に備える意識や水害の伝承は残されています。
11	**三十六間樋管**	前掲
12	**栢間堀川**	前掲
13	**橋戸集落の建造物**	見沼代用水を使った見沼通船は、柴山伏越の掛渡井を使って忍城下まで物資の運搬を行っていました。掛渡井廃止後は、上り下りの荷物は橋戸での積み替えが必要となったことから、橋戸は、物資の中継点として栄えました。このため、橋戸集落には、往時の繁栄の名残をとどめる建物が残されています。

14	**井澤弥惣兵衛分骨墓**	柴山伏越のたもとにある常福寺には、見沼代用水の開削を指揮した幕府勘定吟味役井澤弥惣兵衛為永の分骨墓があります。柴山伏越は規模の大きな構造物で、10 年から 20 年に 1 度は伏替えが行われました。為永も常福寺から見沼代用水の安全を見守っていることでしょう。
15	**旧大山民俗資料館(大山小学校旧校舎の一部)**	旧大山民俗資料館は、昭和 12 年に建築した校舎の建替えに際して、その一部を移築改修して昭和 56 年 7 月に開館しました。明治 43 年春に新築した校舎がその夏被災し、わずか 20 年ほどで再度建築することになったという歴史を持ちます。木造の学校建築物としても貴重な建物です。
16	**柴山諏訪八幡神社奉納絵馬(市指定)**	柴山諏訪八幡神社は、菖蒲城主佐々木秀綱の創建と伝えられます。大絵馬 50 面が残されており、「源平合戦」「富士の巻狩」などのほか、「白蛇」や「誕生祝い」などの貴重なものも含まれます。橋戸の繁栄に支えられたと伝えられます。
17	**堤土置争論裁許状**	前掲
18	**入会沼争論絵図**	正徳元年(1711)に、柴山沼の利用をめぐって柴山村・荒井新田村・丸谷村の間で起こった争論に関する絵図です。2 年に及ぶ争論の結果、柴山沼は三村の入会地で、村ごとに「沼藻草銭」を納めることで決着しました。
19	**梨生産用具**	梨作りに使われた剪定鋏や摘果鋏、芯切鋏、花掛けと呼ばれる受粉作業用具など特徴的な農具類や籠などの流通運搬具、栽培技術にかかる資料などのほか、梨出荷組合に関する資料が残されています。
20	**内水面漁撈具**	柴山沼では、漁業兼業農家があり、投網漁四手網漁などが、行われていたほか、柴山沼や周辺の河川、水路を含め、地域の人々も折に触れて魚とりを行っていたようです。筌、ヤスなどのほか、様々な形や大きさの魚篭や桶が残されています。
21	**掘上田耕作用具**	柴山沼、皿沼周辺の掘上田は既に残されていませんが、ノロアゲジョレンやシャクシなど掘上田の耕作に特徴的な農耕具が残されています。
22	**フネ**	揚げ舟や水害予備船と称され、現在も納屋の軒下に船を吊っている家が多くあります。かつては、村の中まで引き込まれた水路を使って田畑と往復したり、収穫した作物を運ぶために使ったりしたといいます。水害のときは、物資や救助にも使われたと伝えられています。
23	**川魚料理**	柴山沼や皿沼、元荒川、野通川、星川の集まる柴山周辺では、川魚漁が盛んで、家庭でも食べられていたようです。また「橋戸」周辺にはウナギやコイ料理を出す川魚料理屋が営まれています。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		柴山天王様、柴山おししさま、下大崎とうろう、ナイダー、お囃子、いっとこ団子、蛇女房、七不思議、魚とり、ほっつけ、揚舟、伏越の度胸試し、梨栽培
関連文化財群と関連の深い人物		井澤弥惣兵衛、山崎禮助、佐々木氏(菖蒲城主)、旗本南条氏、江原善兵衛

梨の花見(昭和初期ころ)

梨(新高)の収穫風景

梨栽培や出荷の用具(昭和 30 年代)


入会沼絵図

柴山沼の投網漁の様子

柴山沼周辺航空写真

被災水位のわかる
土蔵（荒井新田）

揚げ舟（柴山地内）

住吉神社奉納絵馬

井澤弥惣兵衛分骨墓（常福寺）

堤土置争論裁許状（田口家文書）

諏訪八幡神社奉納絵馬

現在の柴山伏越

元荒川常福寺橋周辺

柴山地内の水塚

ストーリー5　領地・領民を想う新井白石と領主を慕う村人

関連文化財群のストーリー

新井白石は、6 代将軍徳川家宣の儒臣として様々な政策を繰り出します。正徳の朝鮮通信使来日に際して従五位下筑後守に任ぜられた白石の知行地は、はじめ比企郡の奈良梨(ならなし)村と越畑(おっぱた)村と野牛村の 3 村で 500 石でしたが、通信使供応役の功績で相州高座郡に 500 石加増され、合計 1,000 石となります。この折白石は、奈良梨村と越畑村を返納し野牛村一村としたい旨願い出て許されています。この時の喜びは、『折たく柴(の記)』にも記されています。

丘陵部で水が冷たいうえに開発の余地がない奈良梨村と越畑村に比べ、未開の後背湿地とはいえ、日川の運ぶ肥沃な土壌に支えられた野牛村は、うまく排水を行い開発すれば、村高以上の豊かな村にすることができると考えたのでしょう。

白石は、後背湿地の排水路「白石様(殿様)堀」を開削させ、見事な美田に変えたほか、救荒対策として「郷倉」を設け、食糧の備蓄を奨励しています。このほかにも、村方の争いごとに裁定を下した文書が残されているなど、村政にも大きな影響を与えていたことがうかがえます。

白石は、村の鎮守である久伊豆神社の扁額の題字を正徳の朝鮮通信使製述官の李礥(イヒョン)に揮毫してもらい、これをもとに作らせました。この扁額は下書きとともに伝えられているほか、白石 5 世の子孫新井成美が奉納した肖像画が観福寺に伝えられています。

さらに、白石の著作『折たく柴(の記)』の写本が伝えられているなど、自らの領地を思う白石の気持ちとこれに応える村人たちの心意気も感じられます。

村人は白石のことを敬愛の念をこめて「筑後様」と呼び、白石顕彰の思いは、毎年命日である 5 月 19 日の「筑後様まつり」として継承されて行きます。昭和 10 年代に途絶えますが、近年、途絶えていた行事が復活したことは、地域の歴史文化の興隆に大きく寄与するものとして評価に値します。

土地改良工事に伴って埋没種子から発生した古代ハスは、中の宮の蓮池で毎年見事な花を咲かせてくれます。白石の時代から連綿と受け継がれた圃場を大切にする人々の気持ちが一つとなって咲かせた蓮の花だといえましょう。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	**白石様（殿様)堀**	前掲
2	**郷倉跡(記念碑)**	新井白石が救荒対策として設けた「郷倉」の跡地です。旧法に基づいて埼玉県遺跡保存会指定となったことを記念して、昭和 3 年に「白石公報恩会」が設置した記念碑が建てられています。
3	**笠原用水**	前掲
4	**庄兵衛堀川と庄兵衛堰枠**	前掲
5	**日川流路跡・自然堤防**	古い航空写真などでみると日川の流路跡と見られる痕跡や自然堤防が確認できます。新白岡駅周辺の土地区画整理や圃場整備などで旧地形がわからなくなりつつありますが、当時の野牛村の様子を知る上で、地形を知ることは大切です。
6	**姫宮落川**	前掲
7	**備前堀川**	前掲
8	**石橋供養塔**	郷倉跡に 1 基の石橋供養塔があります。これはどこからか移設されてきたもので、すでにどこにあったのかわからなくなっていますが、この供養塔のものと思われる石材が、土地区画整理地内から見つかりました。現在は「白石様堀公園」入り口の敷石として見ることができます。
9	**野牛久伊豆神社扁額・下書き(市指定)**	野牛久伊豆神社の扁額は、白石が正徳の朝鮮通信使来日のおり、製述官の李礥(イヒョン)に頼んで揮毫してもらった下書きを基に彫られたものです。下書きとともに大切に伝えられています。
10	**新井白石自筆漢詩(市指定)**	野牛村の名主家に 4 編の漢詩を装丁した軸が伝えられています。このうち最上段に置かれた一編が「贈北客」と題した白石の自筆と見られる漢詩です。最下段には「秋夜有感」と題した新井成美の漢詩も添えられています。新井家と野牛村との文化的交流を伝える資料といえます。
11	**紙本着色新井白石画像(市指定)**	観福寺に伝えられた新井白石の肖像画です。眉間に刻まれた深い皺や鋭い眼差し、一文字に結んだ口元から強い意志と清廉な心持ちがうかがえます。裏書から白石五世の孫新井成美によって 3 幅作られ、領地の寺に納められたものであることがわかります。
12	**折たく柴(の記)**	「折たく柴(の記)」は、白石が子孫に向けて書き残した三巻からなる伝記です。新井家のことや自身の功績などとともに、子孫への戒めなどが記されています。もちろん、野牛村を拝領したときの喜びも記されています。
13	**大久保家文書(市指定)**	野牛村の名主家で、初見は、天正 5 年(1577)の北条氏繁判物です。中世文書として貴重です。このほか、村人の争論に関する新井白石の裁許状や村政に関する資料も残されています。

14	**久伊豆神社絵馬群**	数は多くありませんが、伊勢参拝記念など大絵馬、掲額が残されています。
15	**筑後様まつり**	昭和 10 年代まで白石公報恩会が主体となって毎年 5 月 19 日の白石公の命日に感謝の念をこめて開催していたといいます。昭和 10 年代に途絶えていましたが、野牛文化財愛護会が中心となって平成 30 年に復活させました。地域の文化財を使って、新井白石と地域とを結ぶ新たな取組として注目すべき行事です。
16	**観福寺の宝篋印塔**	観福寺の墓所にある宝篋印塔の台石には、安政の大地震と関東大震災で倒壊した塔を修復した記載が残されています。災害の記録として貴重な資料です。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		庚申講、御嶽講、おしっさま、鷹匠湯、片葉の葦、古代蓮
関連文化財群と関連の深い人物		新井白石、李礥

白石様堀

白石自筆漢詩

北条氏繁判物（大久保家文書）

野牛久伊豆神社扁額

復活した筑後様まつりの様子

扁額下書き

紙本着色新井白石画像

郷倉跡記念碑

折たく柴（の記）

蓮河原の古代ハス

野牛久伊豆神社

ストーリー6　篠津宿の賑わいを支えたもの

関連文化財群のストーリー

近世を迎えると篠津の地は、日光街道粕壁宿と中山道鴻巣宿とを結ぶ脇往還の町場として栄えました。いわゆる「宿場」ではありませんが、地域では「篠津宿」と呼び習わしてきました。

篠津は、江戸初期は騎西藩領、寛永期から元禄期までは川越藩領で、その後旗本徳永氏の知行となります。中世段階で鬼窪氏によって開発されていた篠津は、江戸初期に、既に 1,000 石を超える村高がありました。これは、近隣の他村に比べ倍以上の村高であり、人や物資の集まりやすい環境であったことは確かだといえます。

篠津の宿は、文政 10 年（1827）の記録によれば、農間余業の業種は 33 種、従事者数は、124 人であったことがわかります。最も多いのは、店を持たない露天商のような業態で 12 人、質屋 9 人、煮商居酒屋 8 人と続きます。注目すべきは機織、綿布売買 7 人、綿打 6 人と続くことです。2 軒記録されている紺屋と合わせ、埼玉郡域の代表的産物である木綿に関する職業が上位を占めていたことが読み取れます。

商工業の発達により「読み書き算盤」の必要性が高まります。そのようなとき、黒浜村に生まれた大野雅山が篠津で開塾します。大野塾は近隣から塾生を受け入れ、近代の学制施行後は篠津学校へと続がれ、地域の教育を担っていきました。

篠津を拠点として紅花問屋を営んだ商家「篠川」は、元荒川から水路を引いた河岸場を持ち、紬蔵や紅花干場などを持つ大きな商家だったことが知られています。元荒川の水運を利用した木綿の流通も篠川が差配していたようです。

幕末には、紅花問屋「篠川」の財力を背景に、久伊豆神社の社殿彫刻や各耕地に残されている豪華な彫刻の 5 台の山車などが作られました。この彫刻を手掛けたのは、野州阿蘇郡から来た彫工達でした。この中に「立川音吉(芳)」という人物がいました。当時はまだ二十歳前の若者だったと思われますが、「篠川」は音吉を篠津に住まわせ、職人として一本立ちさせます。その音吉の孫「立川金禄」は、戦後、「軍鶏」を題材として日展入選 22 回を誇る彫刻家となりました。

篠津の宿の賑わいは篠津だけで成り立つものではありません。周辺の村々や寺社に対する信仰なども篠津の宿の賑わいを支えています。

例えば、白岡村と篠津村との境に位置する古刹興善寺や古くから近郷近在の信仰を集めてきた古社白岡八幡宮などの存在は大きな精神的支えであったものと思われますし、縁日、祭礼などの「人寄せ」の持つ経済効果も大いに篠津の宿の賑わいを支えてきたといえます。

脇往還沿道とはいえ、主要街道を結ぶ位置にあり、元荒川を使った水運にも恵まれた篠津の宿は、紅花問屋「篠川」の資金力に後押しされ、集まった人と物資が相乗効果をもたらしました。

古代から連綿と続く人々の営みが、「河川」「流通」「交流」「学問」「芸術」などのキーワードをつむぎ、篠津の宿の賑わいを支えたのだということができましょう。

構成文化財一覧

No	文化財の名称	概要
1	**篠津久伊豆神社本社殿（市指定）**	篠津久伊豆神社の本殿には、きわめて精緻な伽藍彫刻が施されています。安政元年から 5 年の歳月をかけて完成したと伝えられます。
2	**篠津天王様の山車(5 台)（市指定）**	篠津の各耕地には、いずれ劣らぬ彫刻を施した山車が伝えられています。久伊豆神社の社殿彫刻と同時期に順次作られたようで、野州阿蘇郡の立川流の宮大工の手になるものであることがわかっています。
3	**篠津天王様の神輿（市指定）**	篠津の須賀神社に伝わるもので、元治元年(1864)の修理銘が残されています。平成の大修理の折に、串作村(現加須市)の飾り職の銘が見つかり、在地で設えられたことがわかりました。
4	**篠津天王様**	篠津須賀神社の祭礼で、7 月 2 日の宮出しに始まり、15 日には神輿の渡御、山車の巡行が行われます。現在は 7 月 15 日に近い日曜日に変更されていますが、近隣からも多くの来客があるにぎやかな祭礼です。
5	**元禄 15 年庚申塔**	篠津道中橋の袂、青雲寺の近くに、元禄 15 年(1702)銘の庚申塔が残されています。青面金剛の浮彫立像のある側面に「東方さってみち　西方かうのすみち」と刻まれています。天王様の神輿も道中橋まで来て引き返します。道中橋が篠津村の出入口に位置していたことを意味しています。
6	**興善寺の豆まき**	興善寺は篠津と接する白岡の北端にあり、文亀 2 年(1502)、菖蒲城主佐々木氏綱を中興開基、季雲永岳禅師を中興開山として曹洞宗に改宗したと伝えられます。豆まきはかつての領主が鬼窪氏であったことから「鬼はご随意」という掛け声で行われます。
7	**円空作観音菩薩立像（市指定）**	元荒川に架かる「茅野の渡し」の渡し守を務めた家に残されたもので、同家では「先祖様」と呼んで簡素な厨子に納めて仏壇に安置しています。旅の僧侶が宿泊のお礼に残していったという伝承も残されています。

8	**大野家文書**	近世、近代の古文書典籍合わせて 997 点からなります。大野雅山が嘉永 5 年(1852)に篠津村に漢学塾を開いてから、明治維新後学制が布かれ、大野塾を母体として篠津学校が開かれる経緯などに関する資料が充実しています。幕末から維新の変革期の地域教育の様子を伝える史料群です。
9	**立川金禄の作品群**	立川金禄は、篠津天王様の山車彫刻や久伊豆神社の社殿彫刻を手掛けた立川音吉(芳)の孫に当たります。金禄は、後に日展参与となる橋本高昇に師事し、第 1 回正統木彫家協会展に「軍鶏」を出品します。その後日展入選 22 回など彫刻家として活躍しました。
10	**篠津浅間様の初午**	毎年 7 月 1 日の富士山山開きに合わせて初午参りが行われます。足腰の強い子に育つようにとの願をこめてお参りし額に朱印を受けます。土産にうちわを買って帰り、親戚に配りました。
11	**菱沼渓斎翁墓碣銘**	篠津村の名主菱沼次兵衛の墓誌で、昌平坂学問所の講官佐藤坦の撰文です。次兵衛が、元荒川と星川の河川管理をよく行い、水害を減らし、農業振興に尽くしたことなどが記されています。
12	**白岡八幡宮の馬寄せ**	白岡八幡宮は、建久 6 年(1195)、源頼朝の命を受けた鬼窪某が社殿を造営したと伝えられる古社で、古くから近郷近在の信仰の対象となってきました。特に 3 月 15 日の馬寄せは大きな祭礼で、かつては農耕馬の安全厄除けを祈って、飾り馬の行列や草競馬などの催しが行われていました。また、前年に嫁に行った人や嫁入りした人が嫁入り支度でおまいりし安産を祈りました。
13	**小久喜久伊豆神社とささら獅子舞(市指定)**	小久喜村の鎮守として信仰を集めています。「鬼窪尾張繁政館跡」や「寿楽院」と隣接することから、鬼窪氏との関係が強いものと思われます。毎年 4 月に奉納される「小久喜の獅子舞」は地元では「クンキのささら」と呼ばれて親しまれています。
地域で受け継がれてきた伝承、伝統行事等		篠津天王様、野与道、西光院の狸、ねずみ浄土、慈照院はチンピロリン、赤池、馬立、大野塾、篠川
関連文化財群と関連の深い人物		鬼窪氏、佐々木氏、菱沼、立川音吉(芳)、立川金禄、大野雅山

篠津久伊豆神社

興善寺

白岡八幡宮

小久喜久伊豆神社

篠津天王様の神輿

篠津天王様の山車・横宿耕地

篠津久伊豆神社の社殿彫刻

庚申塔

篠津天王様

菱沼渓齋翁墓碣

大野家文書

円空作観音菩薩立像

新田の天王様（白岡・新田地区）

興善寺の豆まき

小久喜のささら獅子舞

2 関連文化財群の課題･方針･取組

第 5 章で導き出した課題と基本方針に則りながら、6 つのストーリーで括った関連文化財群ごとの保存・活用に関する課題と方針そして取組について検討します。

関連文化財群の設定は、地域の文化財の総合的把握と一体的な保存・活用の出発点となります。課題を乗り越え成果に結びつける取組が求められます。

ストーリー1　鎌倉街道と幻の川「日川」

① 現状と課題

ストーリー1　鎌倉街道と幻の川「日川」に関する現状と課題は以下の通りです。

- 中世起源の寺社や「鎌倉街道」、「日川」を関連付けた調査が不足しています。
- 各文化財について必要な修繕や保存処理などが行われていません。
- 関連文化財群をテーマとした学習機会が不足しています。
- 地元と協働して文化財群を守る取組が行われてきませんでした。
- ストーリーの啓発手法の開発が必要です。

② 基本方針

ストーリー1　鎌倉街道と幻の川「日川」に関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針 1　文化財を調べる

・中世寺社、中世遺跡、鎌倉街道、日川などの情報の蓄積を図ります。

◇基本方針 2　文化財を守り伝える

・適切な修繕、保存処理などを進めます。

◇基本方針 3　文化財を知る

・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。

◇基本方針 4　文化財をともに支える

・地域の関心を高め、「鎌倉街道」や「日川」などをともに守り伝える意識の醸成に努めます。

◆ストーリー固有の方針

・市域東部の商工・観光の振興施策のひとつとして、官民一体となった地域おこし手法の検討、導入に努めます。

③ 保存と活用に関する取組

ストーリー1　鎌倉街道と幻の川「日川」に関する取組は以下の通りです。

＊青文字：再掲事業、明朝体：次期以降の計画反映事業、**ゴシック体**：今計画期間内に取組む事業

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
1	1	仏像・神像調査（再掲）	○	○	◎		→	→	→	→
	2	建造物調査（再掲）	○		◎					
	5	中世資料総合把握調査（再掲）	○	○	◎		→	→	→	→
	61	「日川」に関する情報の総合把握調査	○	○	◎					
	62	「鎌倉街道」に関する情報の総合把握調査	○	○	◎					
	63	正伝寺所蔵資料調査			◎					
2	64	**仏像・神像の保存処理、修繕** 大徳寺大日如来の仏手の保存処理を推進します。			◎				→	→
			目標値			保存処理の実施				
	65	幻の川「日川」学習会	○	○	◎					
3	49	文化財解説板の設置・改修（再掲）		◎	◎		→	→	→	→
	52	関連文化財群周遊コースの設定（再掲）			◎		→	→	→	→
	53	周遊コースのセルフガイドの発行（再掲）		◎	◎		→	→	→	→
	66	「日川」の恵み情報発信事業	◎	◎	◎					
4	34	文化財ボランティアの育成（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
	54	白岡遺産の登録促進（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
	59	「ちょボラ」活動の推進（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
◆	67	「大徳寺縁起」の普及		◎	◎					
	68	中世寺社巡り御朱印帳の発行		◎	◎					

ストーリー2　二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏

①　現状と課題

ストーリー2　二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏に関する現状と課題は以下の通りです。

- 文化財同士を関連付けた調査検討が行われていません。
- 古くから知られている文化財が多いですが、基礎データが蓄積されていません。
- 関連文化財群をテーマとした学習機会が不足しています。
- 文化財の解説板や文化財周遊コースの設定が必要です。
- 多様な要素をまとめる強固なストーリーと浸透力のある啓発手法の開発が必要です。

② 基本方針

ストーリー2　二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏に関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針１　文化財を調べる
・篠津、白岡地域の歴史的事象や文化財の総合的把握と情報の整理を促進します。
◇基本方針２　文化財を守り伝える
・適切な修繕、保存処理などを進めます。
◇基本方針３　文化財を知る
・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。
◇基本方針４　文化財をともに支える
・「篠津天王様」や「白岡八幡宮」など、これまでも市民の心の拠りどころであった文化財に一層磨きをかけ、地域の歴史文化に誇りを持つ市民意識の醸成に努めます。
◆ストーリー固有の方針
・白岡駅西口再開発事業と連携し、篠津・白岡地域の文化財周遊コースの整備や文化財を活用した地域おこし手法の検討、導入に努めます。

③ 保存と活用に関する取組

ストーリー2　二つの川筋を背景に勢力を伸ばした鬼窪氏に関する取組は以下の通りです。

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
1	5	鬼窪氏と中世遺跡群総合調査（再掲）			◎					
	9	諸家文書調査（再掲）			◎					
	69	**鉄生産関連遺跡の把握促進** 中妻遺跡、タタラ山遺跡のほか、炭焼窯の検出された遺跡などの確認、鍛造薄片の成分分析などの実施、近隣製鉄遺跡との対比を促進する。			◎					
			目標値			鉄生産遺跡及び出土鉄製品の集成・類型化				
2	70	**中世遺跡出土資料の保存** 中妻遺跡や入耕地遺跡などの中世遺跡出土資料特に鉄製品等の適切な保存を促進する。			◎					
			目標値			出土鉄製品の保存処理				
	71	興善寺中世石造物群の適切な保存 興善寺と協働で、残欠の多い中世石造物群の散逸を防止し、適切な保存管理を促進する。		◎	◎					
3	43	多様なニーズに即した講座の開催（再掲）	○		◎					
	49	文化財解説板の設置・改修（再掲）		◎	◎					
	52	関連文化財群周遊コースの設定（再掲）			◎					
	53	周遊コースのセルフガイドの発行（再掲）		◎	◎					
4	34	文化財ボランティアの育成（再掲）	◎	◎	◎					
	54	白岡遺産の登録促進（再掲）	◎	◎	◎					
	59	「ちょボラ」活動の推進（再掲）	◎	◎	◎					

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
◆	72	**鬼窪氏顕彰の仕組み作り** 名前のわかる一族のキャラクターを作成し普及活動のマスコットに使うなど、鬼窪氏の積極的 PR に努める。	○	◎	◎				→	
			目標値			キャラクターの作成				
	73	「観応の擾乱」時の入耕地館の再現 高麗経澄軍忠状に見える鬼窪での旗揚げの様子のジオラマ製作を促進する。			◎					

ストーリー3　新田開発と川の立体交差

①　現状と課題

ストーリー3　新田開発と川の立体交差に関する現状と課題は以下の通りです。

- 文化財同士を関連付けた調査検討が行われていません。
- 河川や河川構造物などは、専門的知識のある指導者のもとでの調査が必要です。
- 必要な修繕や保存処理が行われてきませんでした。
- 関連文化財群をテーマとした学習機会が不足しています。
- 関連文化財群の周遊コースの整備が不十分です。
- 地元と協働して文化財群を守る取組が行われていません。
- ストーリーの啓発手法の開発が必要です。

②　基本方針

ストーリー3　新田開発と川の立体交差に関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針１　文化財を調べる
- 近世の新田開発や水害、水争いに関する情報集積を進めます。

◇基本方針２　文化財を守り伝える
- 適切な修繕、保存処理などを進めます。

◇基本方針３　文化財を知る
- 関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。

◇基本方針４　文化財をともに支える
- 地域の関心を高め、「新田開発」や「川の立体交差」などをともに守り伝える意識の醸成に努めます。

◆ストーリー固有の方針
- 市観光協会と連携し、「川の立体交差」を観光資源として活用した多様な啓発手法の検討、導入に努めます。

③　保存と活用に関する取組

ストーリー3　新田開発と川の立体交差に関する取組は以下の通りです。

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
1	2	建造物調査（再掲）	○		◎					
	9	諸家文書調査（再掲）	◎		◎	→	→	→	→	→
	10	古文書整理（再掲）	○		◎	→	→	→	→	→
	74	河川用排水路の築造、改修等に関する情報の整理			◎					
	75	橋、堰、圦樋その他の河川構造物の悉皆調査			◎					
2	76	**水争裁許絵図や沼、河川に関する絵図の集成と適切な管理** 絵図の集成と適切な管理、複製の作成を進める。	◎		◎		→	→	→	→
			目標値			絵図 10 面の複製作成				
	77	**庄兵衛堰枠の管理** 堰枠内に堆積した土砂の浚渫やレンガの劣化防止措置。浚渫は土木建設業者に委託して実施。劣化防止措置については、調査の上必要な措置を講じる。	◎	◎	◎			→	→	→
			目標値			浚渫の実施				
3	43	多様なニーズに即した講座の開催（再掲）	○		◎	→	→	→	→	→
	49	文化財解説板の設置・改修（再掲）		◎	◎	→	→	→	→	→
	52	関連文化財群周遊コースの設定（再掲）			◎		→	→	→	→
	53	周遊コースのセルフガイドの発行（再掲）		◎	◎		→	→	→	→
4	34	文化財ボランティアの育成（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
	54	白岡遺産の登録促進（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
	59	「ちょボラ」活動の推進（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
◆	78	「絵図」展の開催	○		◎					
	79	**他のストーリーとの橋渡し役としての仕組み作り** 関連文化財群が市内全域に広がる特性を活かし、ストーリー相互のネットワークのハブとなる仕組み作りを促進する。		○	◎		→	→	→	→
			目標値			ストーリーを結びつけるイベントの開催				

ストーリー4　水の災いを恵みに換える暮らしの知恵

①　現状と課題

ストーリー4　水の災いを恵みに換える暮らしの知恵に関する現状と課題は以下の通りです。

・柴山沼周辺で行われてきた漁撈活動に関する調査が不十分です。
・橋戸地区に関する総合的調査が行われてきませんでした。
・旧大山民俗資料館の活用方針が不明確です。
・大山地区や柴山沼を題材とした学習メニューが不足しています。
・「文化財群」として把握した教育普及事業が必要です。
・魅力ある個別の文化財がありますが、群としての認識が薄く統一感がありません。
・多様なプログラム展開の可能性を持つ文化財が多いですが、うまくコーディネートできていません。

② 基本方針

ストーリー4　水の災いを恵みに換える暮らしの知恵に関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針１　文化財を調べる
・柴山沼をめぐる暮らしと文化に関する文化財の総合的把握に努めます。
◇基本方針２　文化財を守り伝える
・適切な修繕、保存処理などを進めます。
◇基本方針３　文化財を知る
・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。
◇基本方針４　文化財をともに支える
・地域の関心を高め、柴山沼や橋戸、伏越など多様な文化財群をともに守り伝える意識の醸成に努めます。
◆ストーリー固有の方針
・個性的な特徴を持つ文化財群の多い地域特性を活かし、官民一体となって文化財の持つ魅力を最大限に引き出し地域の活性化につながる多様な啓発手法の検討を進めます。

③ 保存と活用に関する取組

ストーリー4　水の災いを恵みに換える暮らしの知恵に関する取組は以下の通りです。

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
1	3	漁具、漁撈調査（再掲）	○		◎			→	→	→
	8	民具調査・整理（再掲）	○	○	◎	→	→	→	→	→
	80	柴山沼、元荒川等水辺環境調査	○		◎					
	81	**水塚群総合調査** 塚、塚上の建物、水塚に関する伝承等の総合調査を実施する。	○		◎			→	→	→
			目標値			水塚総合調査の実施着手				
	82	橋戸地区歴史文化総合調査	○	○	◎					
2	83	旧大山民俗資料館（元大山小学校校舎）の復元整備		○	◎					

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
3	43	多様なニーズに即した講座の開催（再掲）	○		◎					
	49	文化財解説板の設置・改修（再掲）		◎	◎					
	52	関連文化財群周遊コースの設定（再掲）			◎					
	53	周遊コースのセルフガイドの発行（再掲）		◎	◎					
4	34	文化財ボランティアの育成（再掲）	◎	◎	◎					
	54	白岡遺産の登録促進（再掲）	◎	◎	◎					
	59	「ちょボラ」活動の推進（再掲）	◎	◎	◎					
◆	84	復元整備した木造校舎を使ったフィルムコミッションの推進		◎	◎					
	85	**用水路を使ったカイボリ体験** 水を落とした秋に実施していた「カイボリ」の体験会を実施する（水利組合や農協、地域団体との協働で実施）。	○	◎	◎					
			目標値			「カイボリ」体験会運営準備				
	86	柴山沼での投網漁体験	○	◎	◎					

ストーリー5　領地・領民を想う新井白石と領主を慕う村人

①　現状と課題

ストーリー5　領地･領民を想う新井白石と領主を慕う村人に関する現状と課題は以下の通りです。

- 文化財同士を関連付けた調査検討が行われてきませんでした。
- 個別の文化財に関する詳細調査や科学的調査が不十分です。
- 必要な修繕や保存処理が行われてきませんでした。
- 関連文化財群をテーマとした学習機会が不足しています。
- 文化財の解説板や文化財周遊コース設定が必要です。
- 地元で行われている文化財群を守る取組に対する積極的支援が行われていません。
- 文化財保護ボランティアの育成が必要です。
- ユニークベニューの導入や積極的情報発信など地元の文化財愛護活動の取組支援強化が必要です。

②　基本方針

ストーリー5　領地・領民を想う新井白石と領主を慕う村人に関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針１　文化財を調べる
・新井白石とその関連文化財群の総合的把握に努めます。
◇基本方針２　文化財を守り伝える
・適切な修繕、保存処理などを進めます。
◇基本方針３　文化財を知る
・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。
◇基本方針４　文化財をともに支える
・清廉なイメージの新井白石と白岡市のイメージを重ね、市民とともに白石の事跡顕彰と文化財の保存・活用を図ります。
◆ストーリー固有の方針
・地域の文化財愛護組織や学校等、多様な団体と連携し、ユニークベニューの積極的導入を図り、文化財の普及・活用と地域づくりを促進します。

③ 保存と活用に関する取組

ストーリー5　領地・領民を想う新井白石と領主を慕う村人に関する取組は以下の通りです。

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
1	9	諸家文書調査（再掲）	◎		◎	→	→	→	→	→
	10	古文書整理（再掲）	○		◎	→	→	→	→	→
	87	矢部家「折たく柴（の記）」の来歴調査 筆写元や筆写時期などの確認調査を実施する。	○		◎			→	→	→
			目標値			筆写元や筆写時期などの確認				
	88	「紙本着色新井白石画像」の科学的分析 料紙や絵の具の分析や絵師の推定などの調査を実施する。			◎					→
2	77	庄兵衛堰枠の管理（再掲）	◎	◎	◎			→	→	→
	89	大久保家文書「北条氏繁判物」の修繕 軸装であるが、痛みが進行しており、表装の修繕が必要。また、市内に残る数少ない中世文書の活用のため複製を作成する。	○		◎			→	→	→
			目標値			「北条氏繁判物」の修繕・複製製作				
3	43	多様なニーズに即した講座の開催（再掲）	○		◎	→	→	→	→	→
	49	文化財解説板の設置・改修（再掲）			◎	→	→	→	→	→
	52	関連文化財群周遊コースの設定（再掲）			◎		→	→	→	→
	53	周遊コースのセルフガイドの発行（再掲）		◎	◎		→	→	→	→
4	34	文化財ボランティアの育成（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
	54	白岡遺産の登録促進（再掲）	◎	◎	◎	→	→	→	→	→
	59	「ちょボラ」活動の推進（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
4	90	**野牛文化財愛護会の活動支援** 筑後様まつりをはじめとする地域活動を支援する。	○	◎	◎					
			目標値			地域活動の支援				
	91	**筑後様まつりの支援** 児童生徒の参加やユニークベニューの導入を支援する。	○	◎	◎					
			目標値			筑後様まつりの支援				
◆	92	朝鮮通信使の末裔との交流会			◎					
	93	白石関連グッズの作成			◎					
	94	**白石ゆかりの地域との交流会** 新井家の所領であった村を持つ自治体や白石ゆかりの地域を結んだ交流事業の開催を促進する。		◎	◎					
			目標値			交流事業の開催へ向けた調査着手				
	95	**鶴岡市藤沢周平記念館との交流展** 白石を主人公とした「市塵」の著者藤沢周平の遺稿等を所蔵する記念館との交流展示などの企画及びタイアップ事業の実施を促進する。		◎	◎					
			目標値			藤沢周平記念館との交流展準備着手				

ストーリー6　篠津宿の賑わいを支えたもの

①　現状と課題

ストーリー6　篠津宿の賑わいを支えたものに関する現状と課題は以下の通りです。

- 篠津久伊豆神社の社殿や篠津天王様の山車彫刻など特色ある文化財の適切な保存が不十分です。
- 関連文化財群に関する総合的な調査が不十分です。
- 篠津宿の商工業発達に関する総合的調査が行われていません。
- 祭礼の運営組織などの文化財保存組織との連携や協働が不十分です。
- 大小様々な祭礼、行事の総合的調査が不十分です。
- 祭礼行事に関する支援が不十分です。
- 関連文化財群を巡る周遊コースの設定が必要です。
- 関連文化財群を題材とした学習メニューが不足しています。
- 魅力ある個別の文化財がありますが、群としての認識が薄く統一感がありません。
- 多様なプログラム展開の可能性を持つ文化財が多いですが、うまくコーディネートできていません。

②　基本方針

ストーリー6　篠津宿の賑わいを支えたものに関する基本方針は以下の通りです。

◇基本方針１　文化財を調べる
・関連文化財群の総合的把握に努めます。
・これまで蓄積してきた古文書や聞き取りデータの体系的な再整理を行います。
◇基本方針２　文化財を守り伝える
・適切な修繕、保存処理などを進めます。
◇基本方針３　文化財を知る
・関連文化財群に関する学習機会の提供に努めます。
・新たな学習コンテンツの開発に努めます。
◇基本方針４　文化財をともに支える
・地域の関心を高め、多様な文化財群をともに守り伝える意識の醸成に努めます。
・地域の文化財愛護団体との一層の連携を図ります。
◆ストーリー固有の方針
・篠津天王様や興善寺の豆まきなど規模の大きな祭礼を擁しています。関連する文化財群を含め、地域住民や文化財愛護団体と連携しながら、文化財の持つ魅力を最大限に引き出し地域の活性化につながる多様な啓発手法の検討を進めます。

③ 保存と活用に関する取組

ストーリー6　篠津宿の賑わいを支えたものに関する取組は以下の通りです。

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
1	8	民具調査・整理（再掲）	○	○	◎	→	→	→	→	→
	9	諸家文書調査（再掲）	◎		◎	→	→	→	→	→
	10	古文書整理（再掲）	○		◎	→	→	→	→	→
	96	篠津天王様の山車及び篠津久伊豆神社社殿彫刻等総合調査	○		◎					
	97	**立川金禄作品の所在確認調査** 立川金禄作品の所在確認と作品図録の作成を促進する。	◎	◎	◎				→	→
			目標値			市内の作品所在把握				
2	98	篠津久伊豆神社社殿彫刻の保存			◎					
	99	篠津天王様の山車模型作成			◎					
3	43	多様なニーズに即した講座の開催（再掲）	○		◎				→	→
	49	文化財解説板の設置・改修（再掲）		◎	◎	→	→	→	→	→
	52	関連文化財群周遊コースの設定（再掲）			◎	→	→	→	→	→
	53	周遊コースのセルフガイドの発行（再掲）		◎	◎	→	→	→	→	→
	100	遊びの中で文化財に親しむ企画の検討			◎					

基本方針	No	事業名	主な取組主体			取組年度				
			市民	地域	行政	１年次	２年次	３年次	４年次	５年次
4	34	文化財ボランティアの育成（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
	54	白岡遺産の登録促進（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
	59	「ちょボラ」活動の推進（再掲）	◎	◎	◎		→	→	→	→
◆	101	**興善寺の豆まきの支援** 「鬼はご随意」という掛け声の豆まきの PR とユニークベニューの導入を支援する（市観光協会や地元市民団体等と協働して実施）。	◎	◎	◎		→	→	→	→
			目標値			観光協会等との協働				
	102	生涯学習講座「大野塾で使われた教材で勉強してみよう」の開講 四書五経や庭訓往来などを使った講座を企画する。	○		◎					